

狭隘な場所でのブロック製作における 安全・工程管理について

(社)北海道土木施工管理技士会

株式会社 高木組

現場代理人

駒野寛和[○]

Hirokazu Komano

担当技術者

中川澄人

Sumito Nakagawa

担当技術者

櫻井大士

Hiroshi Sakurai

1. はじめに

本工事は、久遠漁港建設工事において据付する被覆・根固ブロック、消波ブロックを製作するものである。

工事内容は、吸出し防止ブロック（ディンプル4t 218個）・被覆ブロック（ビーハイブ10t 377個）・消波ブロック（ディンプル80t 145個）の製作である。

施工箇所が狭隘な場所であり、又、条件として引き渡しの時期に制限があった。

2. 適用工種

○被覆・根固工

吸出し防止ブロック 218個

被覆ブロック 377個

○消波工

消波ブロック 145個

3. 現場における課題・問題点

- ① 狭隘な製作ヤードであり、綿密な配置計画が必要である。
- ② 建設工事のケーソン据付に、支障のないような工程で製作しなければならない。
- ③ 80tの大型消波ブロックの製作に当たり、大型クレーンを使用するため、死角となる箇所が

大部分となり、危険であり、その対処が求められる。

- ④ 気象条件等により、打設・解組・転置の一連の作業が、困難になる場合が予想される。

4. 対策・工夫

- ① 作業内容・方法・手順・安全対策の検討を行い、打設箇所・型枠解組・ブロック転置箇所等の配置計画を綿密にし、各作業箇所の区域を明確に表示することとした。
- ② クレーン業者との、工程会議を綿密に行い、発注者・関係各所とも綿密に連絡を取り、協議した。
- ③ 大型クレーンの使用及び大型ブロック製作のため、目視で確認がとれない場合が予想されるので、カメラを設置し周囲の確認を行った。又、合図者とオペレータの指示が確実に伝達されるように、無線を使用した。
- ④ ヤード内で打設から転置までの、一連の作業が出来なくなる（狭隘な場所のため）漁港内道路及びエプロンの使用を、漁業協同組合に許可してもらい、作業ヤードを確保した。

5. 対策等の状況写真

以下に、対策等の状況写真（図-1、図-2、図-3及び図-4）を表示する。



図-1 作業区域明示状況－その1



図-4 エプロン養生状況



図-2 作業区域明示状況－その2



図-3 道路使用、誘導員配置状況

6. 効果

作業区域を明確にすると共に、他の作業者がみだりに立ち入れないようにし、なおかつ、カメラ・無線を使用することで、安全作業の確保が十分出来たのだと思われる。

据付業者及び関係各所と、綿密に工程の打合せをすることで、9月上旬に6割、10月中旬に9割までの支給、との条件であったが、無事に、そして、大過なくクリア出来た。

又、道路、エプロンの使用許可を得たことでも、工程に支障なく作業出来、安全に作業出来た。

7. 工事終了にあたり

工程管理・安全管理において、当現場の施工に当たった職員又、関連業者及び本社の各サポートにより、無災害で完工出来、誠に感謝しております。